

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471200040		
法人名	営利法人 有限会社 まごの手サービス		
事業所名	グループホーム まごの手		
所在地	大分県豊後大野市朝地町下野442番地2		
自己評価作成日	平成28年月日	評価結果市町村受理日	平成29年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成29年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1、事業所の支援により利用者さまの人権を守ります。</p> <p>2、「マスローの欲求」を指標とし、利用者様が自立感・満足感のある生活をおくれるようにします。</p> <p>3、さりげなく丁寧な支援ができるように職員の人間力及び職員連携の向上を目指します。</p> <p>4、利用者様の安全支援として①重複支援を避ける②ひとつの支援に最後まで責任をもつ③職員間同士でコーチングすることを柱に取り組んでいます。</p> <p>5、地域貢献できる事業所を目指しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>・医療との連携が構築され、日々の健康管理や医療支援など、利用者・家族共に不安なく過ごすことが出来ている。</p> <p>・終末期を迎えた利用者も、皆と一緒に共有空間で過ごしたり、最後まで好物を口に、足浴で気持ちよく過ごせるような重度化支援が行われている。</p> <p>・利用者1人1人の介護計画が、根拠に基づいて詳細に作成されている。</p> <p>・工夫された日々の経過記録が詳細に記録され、職員間の情報の共有に活かされている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「かゆいところ」はマスローの5大欲求を指標とし共有を深めている。かゆいところにいきとどいた支援ができる本質はチームワークであると皆で確認している。	事業所パンフレットに事業所理念と基本方針を明確に表示し、理念は、事業所共有空間に掲示されている。職員個々の介護感を明確にし、利用者支援の実践の指針としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流活動として手作り弁当に事業所の様子を綴った手紙を添えて3ヶ月毎に届けている。小中学校との相互訪問、老人会の訪問等は継続している。	自治会に加入し、事業所開設時から地域との様々な交流事業を行っている。地域住民から、過疎化の進む地域の中で、利用者や職員の日々の活動や取り組みが地域住民の活気に繋がっているとの評価を受けている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣を散歩すると談笑する機会もあり、各家の花を楽しませて頂いている。ご近所の方から「まごの手の人が見に来るから」「地域活性化の一因」という言葉を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告やテーマ別勉強会、意見交換等を活かし運営の一助にしている。協議員の方には昼食を一緒に食べて頂き、食事メニューや介護状況等を確認して頂いている。	運営推進会議は、行政からの提案を活かした資料を準備し、話し合われている。今年度、震災を通して土砂災害の危険箇所や避難について地域の委員から情報を得て、危険箇所や避難について再確認が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故や事業運営の相談報告を随時行っている。互いに協力関係が必要なことを担当者と話している。	行政の高齢者福祉課職員との話しやすい関係が構築されている。行政から意見を求められ、介護現場の声、専門職としての声を届けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様とのコミュニケーションから親密感を深めると共に、介護者本位の不適切な支援になっていないかチームで拘束の有無等を確認している。	不適切な対応がないか会議の中で振り返る機会を持っている。利用者の思いを察知し希望を早く実現すること、環境がもたらす安心への取り組みにより、抑圧感のない生活支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	無自覚な不適切な支援により、利用者様が苦しんでいること、悩んでいることがないかチーム内で確認検討し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の自立感のある生活を守ることや物品管理等、日頃より権利擁護の意識をもって支援している。また成年後見制度を利用される方がいるので、制度を直に学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	双方に不利益が生じないように重要事項の説明を行っている。特に契約解除、利用料、事故リスク等は十分な説明を実施している。法改定時は文書をもってお知らせしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会の際にご家族からの意見をお聞きし、参考反映させている。また長年運営にかかわっている頂いている音楽療法士や後見人にも窓口となって頂いている。	日常の関わりや支援の際に発せられた利用者からの言葉を、職員で共有している。馴染みのボランティアが利用者の思いを代弁して職員に伝える取り組みが行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見交換の場をもち、スタッフ会議の際に意見埋もれがないようにしている。主任が現場の意見要望を取りまとめ、代表者と柔軟に話し合うようにしている。	全職員が、主任のもとで副リーダー業務を経験する仕組みがとられており、チームでの利用者支援に繋がっている。2カ月に1度の職員会議や毎朝夕のミーティングに職員の発言の場を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇加算等の支給説明は確実に実施している。人事考課制度による自己他者評価機会を定期的に設けており、職場のモラルアップに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量把握や職責学習を目的に月リーダー制等を実施している。その中で判断力・折衝力・計画力等を高めている。また職員主体の勉強会を開始しテーマにそって意見交換ができる時間が定期的にある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者と、運営状況等の相談を行いサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
○信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に伴う心情について相手の立場にたって考え、お気持ちを傾聴することから始めている。「安心できる支援者」と認識されるような関係作りを実践している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に伴う不安や要望を遠慮なく伝えて頂けるような接遇を重視し、信頼を得られるような支援を重ね、関係づくりをすすめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の不安や要望をチームで検討し、楽しみや安心感のあるサービス導入に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居生活のなかでご利用者様と互助である関係性を伝え続けることで、おだやかな暮らしの輪が広がっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族・利用者様双方が喜ばれる支援につなげられるように、ご家族の要望をふまえながら協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人生背景にかかわる想いが途切れないよう、会話や意図的な自宅帰り・外出支援を行っている。なじみの方にも協力が得られるようにご家族と連携をとっている。	利用開始時に、担当職員・管理者が利用者のバックグラウンドを含めた情報収集を行い、事業所独自の記録に残している。馴染みの近所の住民が在宅時に自宅に帰るなどして馴染みの関係継続や支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席など配慮しながら、笑い声あふれる家庭的な雰囲気作りをしている。利用者間の不満事等にはさりげなく対応し解決に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、転居された方には面会に行き、ご家族の相談相手になっている。		
人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者が我慢することがないように、それぞれの要望や自己決定を尊重する姿勢で臨んでいる。また意向表出の困難な方には、提案や最良と考える支援を試み意向をくみとっている。	利用開始時、担当職員と管理者が詳細に聞き取り、事業所独自の「まごの手アセスメントシート」に記録し、共有が行われている。日常の支援の中で偶然得られる情報も記録に残し共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族から人生背景をお聞きしながら、大切なことや苦手なこと等を把握し支援につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の自立性を促せるように、意向・体調・動作能力等を、線の視点をもってチームで把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・家族の要望、マスローの5大欲求をフォーカスし、チームで計画立案し展開している。ご利用者様・家族が満足感安心感を得られている支援かどうか評価している。	把握された利用者や家族の思いをもとに、細分化した短期目標を立て、実践に繋がる具体的な介護計画を作成している。半年に1度の見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フォーカス方式により必要な情報を記録し状況変化に対応できる支援にしている。そこで得た結果等を共有して、計画の立案や見直しの資料としている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の心身状態や要望に応じて、自宅帰りや買い物支援等、臨機応変にサービスを展開できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に入会しており、毎年獅子舞等の訪問を頂いている。また理美容室、フラワーショップ等の協力により、ご本人が特別な時間を楽しめるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて家族にも受診時に同伴して頂く。より適切な受診となるように本人をフォローしながら主治医に報告している。受診結果は随時ご家族に報告している。	希望の掛かりつけ医への受診支援に努めている。週に4日、協力医の訪問診療を受けており、日常の健康管理や医療助言を受け、利用者・家族・職員の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	早期改善を目標に、ご本人の要望・変化等を看護職に相談報告し、望ましい療養生活となるように協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報書を提出しご本人が入院生活で困らないようにしている。また退院に向けて面会による顔つなぎや認知機能確認を都度々実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・家族の終末期への想いや意向については、早期から主治医も交え共有している。看とり支援ではご本人の「ここで最期を迎えたい」という気持ちを大切に、最期の時間を支えている。	協力医と職員の協力体制が構築されている。思いを大切に、希望の聞き取りや、重度化対応が行われ、複数の看取り経験がある。酸素吸入をしながらの行事参加や共有空間で過ごしたり、最後まで好物を口にすることなどの重度化・終末期対応が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に備える意識は高く、状態変化を早期発見できる観察力・判断力は向上している。急変時は、事後検討を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震・水害等を参考に防災訓練を整備している。地区の非常連絡網に配置される等、協力体制は継続できている。地域の方からは危険区域等の情報を頂いている。事業所が避難所になることを地区に提案した	年2回火災想定での避難訓練を行っている。今年度、地域の避難場所まで移動実践し、避難時の危険箇所や車いす対応の避難について再認識を行い、行政職員との話し合いも持たれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人生への思い等を聞きながら自尊心をフォローしている。接遇のなかでは「ですます調」での言葉使いを約束事としている。またプライバシー等についての勉強会を実施し対応力を高めている。	事業所のアピール点の最初に「利用者の尊厳」を表している。利用者支援時の言葉使いや、さりげない支援について話し合う機会を持っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話せる関係性作りを重視し、意図的に気持ちの表出時間を作っている。またご本人に選んで頂ける場面作りを重視している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、利用者様の気分や要望に合わせた暮らし作りをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カット時期などは利用者様からのタイミングで行えるように配慮している。また着替えの好みも自己決定できるように選択して頂いている。スタッフもご本人の好きな色などを把握している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は皆がそろって食べるから美味しいという雰囲気となっている。また利用者様とスタッフでの手作り食事dayを設け、好みや思い出深いものが食べられるようにしている。	朝食は事業所で作り、昼夕食は厨房から運ばれている。利用者の咀嚼や嚥下状態によって、事業所厨房で刻みやミキサー食にしている。職員、面会の家族と一緒に食卓を囲み食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた食事量や味付けを職員サイドで柔軟に調整している。摂食困難者には水分や食事も喉越しよく食べられるように対応している。水分量は確実にとれるように生活ペースにあわせ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔は、誤嚥予防目的等、身体によいことと理解して頂けるように楽しい雰囲気の中習慣化してきた。また口臭にも気をつけ洗浄剤等の使用を徹底している。今年は歯科検診を全員受け、アドバイスを頂いた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェックシートから個人の排泄パターンを把握し、さりげない声かけで自立を促している。尿意が弱い利用者様においても、トイレに座って頂き、自立感が継続できるようにしている。	利用者の重度化に合わせ、共有トイレにバーを取り付け、安全に安定した姿勢が取れる工夫をすることで、ほとんどの利用者がトイレに座って排泄する習慣、支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便ができるように、可能な限りトイレに座って頂いている。その際ウォシュレットやお腹をさする等、時間をかけた支援も継続している。下剤服用時間も個々の反応時間に配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	本人の希望やタイミングにそった入浴方法でゆっくりとしたお風呂になるように支援している。入浴中はゆっくりお話を聞き、楽しみとなる時間にしている。	週2回の入浴を基本としている。利用者が重度化しても浴槽に浸かってゆっくり入浴できるよう、介護ロボットを試験的に運用し、実用化が決まっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休息がとれるように、心身の状態やご本人の意向に合わせた生活ペース作りをしている。眠れない時は気持ちをお聞きし不安の共有に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	適切な薬物療法となるよう利用者さまの状態変化等を注視している。また服薬方法も個々の状態に対応している。処方変更の際は、看護職員より注意事項等の説明を行うなど、細心の注意をはらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手軽な野菜栽培や裁縫仕事、晩酌、好きな遊び等がそれぞれが楽しめる時間を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の外出したい時に出かけることを基本に、散歩や買い物、自宅帰り等を実践している。戸外時間での信頼関係づくりも大切にしている。	通院や散歩、複数の利用者と一緒に花見を楽しむ外出支援が行われている。毎年、事業所に燕が巣作りしており、毎日屋外に出て経過を観察したり、ひなの成長を喜びながら外気を楽しむ支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額所持はフリーにしている。お金を所持することによる安心感、自分で金銭管理をする価値観を大切にしている。また買いたい物は個人にあった方法で購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時は、原則「すぐに支援」としている。また逢いたい人との話しをするなどの支援により気持ちの開放に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング等は季節を感じる草花やオブジェで心地よさを提供している。また共有のトイレや浴室等は清潔感を第一としてしている。	食後、共有空間のソファで横になったり、ターミナル期の利用者も、毎食の食事時間に皆と食卓を囲むことを希望するなど、利用者が寛いだり居心地よく過ごせる場づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間であるリビングでは時間々で各利用者様が落ち着く場所を確保できるようにし、リラックスした姿が見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライベートな居室は、癒しの場となるようにご本人の要望を聞きながら、使い慣れた物や好みのもので整えている。室内は転倒防止を含め安心してお過ごし頂ける様に支援している。	季節ごとに制作した共有空間の作品を、掲示終了後に居室に飾って楽しむ利用者があり、終日臥床で過ごす利用者の目線に配慮して物を配置したり、屋外の景色が見えるように居室の工夫を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様本人の意向や生活ペースを守りながら、安全な環境づくりを日々すすめている。		